

2021年6月30日第73回運輸政策セミナー
鉄道事業におけるカーボンニュートラル（脱炭素社会）に向けた取組み
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日も、この会場とオンラインにより大変多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日のセミナーでは、「鉄道事業におけるカーボンニュートラル、脱炭素社会に向けた取組み」について取り上げます。

さて、2019年度における我が国全体のCO₂排出量は11億800万トンであり、このうち、運輸部門からの排出量は2億600万トンで約19%を占めています。

運輸部門の中では、皆様既にご承知のとおり、最も排出量が多いのは自動車で、運輸部門の約86%とそのほとんどを占めており、次いで、航空約5%、内航海運約5%、そして鉄道約4%というように、鉄道もまた一定の割合のCO₂の排出をしています。

ちなみに、国内旅客輸送について、輸送量当たりのCO₂排出量をみると、鉄道は自家用自動車の約8分の1、航空の約6分の1、バスの30%ということで、鉄道は相対的には環境にやさしい交通機関だということは間違いなく言えると思います。

しかし、今やカーボンニュートラルに向けた取組みが、あらゆる分野で全世界の潮流となっており、特に国際輸送を担っている航空や海運においては、国際機関や各国においてカーボンニュートラルへの取組みが加速している状況です。

当研究所でも海運と航空の分野では、この問題を取り上げて検討しており、今年度も継続して2年目の研究調査を行っているところです。

一方、鉄道は我が国では国内輸送を担うものではありませんが、このような世

界的な動きの中、相対的に環境にやさしいというだけでは済ませられる問題ではないと考えています。

このため、鉄道分野においてもカーボンニュートラルを推進する機運を更に高めたいということから、今回、鉄道事業におけるカーボンニュートラルに向けた取組みをテーマとして取り上げた次第です。

そこで、本日のセミナーでは、まず、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの吉高様より、最近のカーボンニュートラルの動向とともに、ESG投資の観点から、企業にとっての気候変動のリスクとビジネス機会についてご講演いただきます。

その後、JR 東日本の笠井様と阪急阪神ホールディングスの相良様から、鉄道事業者におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組みの状況についてご講演いただきます。

最後に、早稲田大学の近藤先生からは、鉄道のカーボンニュートラルを支える基盤技術についてご講演いただきます。

それぞれのご講演の後、パネルディスカッションに移り、当研究所の山内所長のコーディネートにより、皆様方とのディスカッションと質疑応答を行います。

このセミナーを通じて、鉄道分野におけるカーボンニュートラルに向けた取組について理解を深め、今後どのような取組みが望まれるのかなど、皆様と共に考察を深めてまいりたいと思います。

最後に、本日のセミナーにご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶いたします。

本日は誠にありがとうございます。